

教育実践記録

子供がつながり合うクラスを目指して

～ペアトークを通して、相手の話を聞き、自分の考えを伝える児童の育成～

(本文)

《目 次》

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	研究の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	（1）主題設定の理由	
	① 教育の動向から	
	② 本校の学校教育目標から	
	③ 本校の研究テーマから	
	④ 児童の実態から	
	（2）研究の目的	
3	研究の実際・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	（1）ペアトーク・・・・・・・・	2
	① 自分の考えをもつ。	
	② 自分の考えを友達に話したり、聞いたりする。	
	③ 友達の話に反応を返しながら、会話をつなぐ。	
	④ 考えの理由を伝え合い、適切な言葉について考える。	
	（2）支持的風土づくり・・・・・・・・	4
	① 友達のことを知る一学期	
	② 交流をする中で、相手の気持ちを知り、思いを伝える二学期	
	③ 友達の話に自分のことをつなげて考える三学期になるように	
	（3）授業実践・・・・・・・・	6
4	結果と考察・・・・・・・・	6
	（1）成果	
	（2）課題	
	（3）考察	
5	おわりに・・・・・・・・	7

子供がつながり合うクラスを目指して

～ペアトークを通して、相手の話を聞き、自分の考えを伝える児童の育成～

1 はじめに

今年度は1年生の担任になり、児童が分からないことを一つ一つ分かるようにしていくところからのスタートであることを実感した。まずは、児童が学校生活に慣れながら友達のことを知り、友達の考えや気持ちについて考える機会を重ねながら、みんなが気持ち良く過ごすための言動について考える力を育てていきたい。そして、児童が他者理解を深めながらまわりと関わることを通して、気持ちが通い合い、人と関わる心地よさを感じながらつながり合うクラスを目指したい。

そこで、児童が教師や友達と会話したり、一緒に活動したりすることを楽しいと感じる経験を重ねるために、授業内外でペアトークの機会を設け、対話を意識した取組を重ねた。本記録はそれらの取組についてまとめたものである。

2 研究の概要

(1) 主題設定の理由

① 教育の動向から

主体的・対話的で深い学びを実現するために、児童が自分の考えをもち、相手に伝えたり、聞いたりすることを基盤としながら深い学びへとつなげることが重要である。ペアトークを通じた活動は、小学校に入学したばかりの児童が、話し方、聞き方、考え方、聞いて考える力、疑問に思う力等の深い学びにつながる基盤を培うことにつながると考えた。

② 本校の学校教育目標から

本校の学校教育目標は、「思いやりの心を持ち、一生懸命に学び、自ら行動する児童の育成」である。児童がまわりの人に対して思いやりの心をもって寄り添いながら学び、自分の考えをもって行動するために、自分と他者のつながりを大切にしたいクラスを目指した。ペアトークを通じた活動は、児童が友達のことを知り、親しみをもち、気持ちを通わせ合いながら共に学んでいく姿勢を育てていくことにつながると考えた。

③ 本校の研究テーマから

本校の学校教育目標と児童の実態を踏まえた本年度の研究テーマは「主体的・対話的で深い学びを実現する指導法の工夫」である。それをもとに自己のテーマである「自分の考えをもち、友達に話すことができるクラス」を目指して、授業づくりと学級づくりに取り組んできた。学習スキルを身

に付けながら、児童がペアトーク等を通した対話の中で自分の考えをもち、友達に話ができるようになることが、主体的・対話的で深い学びにつながる素地になると考え実践してきた。

④ 児童の実態から

本学級は、男子14人、女子14人の計28人が在籍し、教科によっては、特別支援学級の児童も含め31人で学習をしている。年度当初は、自分の考えをもっていて、話の主旨に沿って会話できる児童は、全体の5分の1ほどだった。また、5月頃は教師の問いかけや話の主旨に応じて自分の考えを文章で伝えることができない児童は、半数近くいた。思っていることを伝えられず友達とのコミュニケーションがうまくいかない児童もいた。また、自分の思いをもっていても自分の意見を相手に伝えることを恥ずかしかったり緊張したりしてしまう児童もいた。それらのことから、友達に自分の考えを安心して話す経験を重ねる必要があると考えた。そこで、円滑な言葉でのコミュニケーションにつながるようペアトークを取り入れた実践に取り組んだ。

(2) 研究の目的

今年度は、自分の考えを友達に伝えたり友達の話を聞いたりしながら、互いに考えを伝え合う児童の育成を目指してペアトークに取り組んだ。(資料1 ペアトークについて)

併せて、支持的風土づくりに関する実践や各教科の授業において互いに考えを伝え合う実践についても考察することを目的とする。

3 研究の実際

自分の考えを友達に伝えたり、友達の話を聞いたりしながら、考えを伝え合うことができる児童を目指して、ペアトークに慣れる活動、互いの思いを理解し合える支持的風土づくり、ペアトークを取り入れた授業実践に取り組んだ。

(1) ペアトーク

児童が学校生活に慣れてきた9月頃から、週に1回程度ペアトークに取り組み始めた。児童に対して、ペアトークとは「隣の席の友達と話をすること」と説明した。ペアトークをする際にはペープサートを使ったり、児童と教師のやり取りを例示したり、ペアトークについての掲示物を提示したりした。(写真1)

ペアトークに関する研究の実践においては、児童が身に付けてほしい力を以下のような4段階に分けた。

- ① 自分の考えをもつ。
- ② 自分の考えを友達に話したり、聞いたりする。
- ③ 友達の話に反応を返しながら、会話をつなぐ。
- ④ 考えの理由を伝え合い、適切な言葉について考える。

以下、それぞれの段階での実践について述べる。

- ① 自分の考えをもつ。

ア 考えを可視化させたワークシートの使用

まずは、友達と話す前に、児童にテーマについて、自分の考えをワークシートに書かせることにした。ワークシート記入に難しさを感じる児童に対しては個別に聞き取りを行い、記入できるようにした。ペアトークで友達と話すことで話すよさや楽しさを実感できるように、まずは自分の考えをしっかりとてるようにした。ワークシートに自分の考えを書くことで、考えが可視化され、話すことに対する不安や緊張が和らぎ、話す時間を楽しみに待つ発言が聞かれた。(シート1、写真2)

② 自分の考えを友達に話したり、聞いたりする。

ア 聞くときの合言葉は、「目・耳・心」

入学してすぐ、話をする人の方に目と体を向けて、話を聞くことを指導した。「相手の言葉を大切にするために、話は、目、耳、心で聞く。」と話をして、現在も話を聞く態度や姿勢の定着を目指している。

イ 真似することからスタート

ペアトークのやり取りについては、まず教師がペアトークの話型を示して定着を図った。児童は、ワークシートを見ながら友達とやり取りをしていたが、ペアトークを繰り返すことでワークシートがなくてもペアトークが可能になっていった。(写真3)

ウ 自分たちで考えたテーマ

子供たちから「〇〇について、友達に聞いてみたい。」という意見が出てきたので、教室後方にポストを設置し、テーマを募ると、投函する児童も出てきた。(写真4、5)

エ 正しく伝える難しさの中で見えた伝えようとする意欲

自分の考えを伝えることができるようになってきた児童たちには、友達の話聞くことをより意識するために、聞いた話をまわりに紹介する活動をした。友達の話聞き落とさずに聞き、正しく伝えることは難しい様子が見られた。しかし、友達の話集中して聞きとろうとしていた。聞いたことを忘れてもまた尋ねて確認したり、ペアの相手が忘れた内容をそっと横から補って説明したりする児童の様子が見られた。話の内容全てを覚えることが難しくても、話の概要をとらえる視点について学ぶと、それらを使って話すことができる児童もいた。(写真6)

③ 友達の話に反応を返しながら、会話をつなぐ。

ア 話すことが嬉しくなる「お返し」

「お返し」とは、言葉や表情、仕草で相手の話に反応をすることである。普段から、学校で取り組んでいる「反応名人になろう」という掲示物を参考にお返しをしていた。ペアトークにおいても「お返しをしよう」ということを学級全体で意識して取り組んだ。お返しの反応例を掲示し、全員で練習をした。適切なタイミングと言い方で使うことも大切にしながら、友達に対してお返しをする様子が見られた。(写真7、8)

イ オリジナルの「お返し」

ペアトークの中で「すごいですね。」「今度、やってみたいです。」等、児童が自分で考えたお返しの言葉も出てきた。それらを学級で共有すると、お返しすることをより意識したやり取りが見られるようになっていった。また、この頃になると、「ペアで話してごらん。」と授業中に声かけすると、すぐに隣同士で考えを伝え合う様子が見られた。どのように話せばよいのか分からない児童については、教師が個別に聞き取りを行ったり、言葉を添えたりしながら話が進むようにした。アンケート結果からは、反応を返すことを約9割の児童が「自分もしていて、相手もしてくれている。」と認識するようになったといえる。(アンケート1)

④ 考えの理由を伝え合い、適切な言葉について考える。

ア 考えたことには、理由がある。

ペアトークでの話がつながるようになった頃、教師が出した簡単なヒントクイズの答えをペアで考える活動をした。ヒントクイズとは、あるものを連想するヒントを伝えることで、それが何かを考えるクイズである。好きなものを伝え合うペアトークとは違い、ヒントクイズは答えを導き出すために児童それぞれの経験や知識等を根拠にしながら考えの理由を含めた会話をする必要があった。子供たちは「〇〇だと思うよ。どうしてかと言うと、～だから。」と、考えの理由を伝え合ったりお返しをしたりして活発なやり取りをしていた。ヒントクイズを数回すると、以前から行っていた好きなものを伝え合うペアトークにおいても「どうして、それが好きなんですか。」と、理由について尋ねる児童が出てきた。話が繋がるよさや楽しさを実感し、より深く友達の考えを知ろうとする様子が見られた。(写真9)

イ 適切な言葉を考えるヒントクイズづくり

ヒントクイズを自分たちで作ってみたいという声が出たため、ヒントクイズを作成するペアトークを行った。ヒントとしてどんな言葉を使えばいいのか、互いの考えを伝え合いながらクイズを考えていた。朝の会や帰りの会、ペアトークの時間にそのクイズを出し合う時間をとった。(写真10～12)

(2) 支持的風土づくり

学級経営も授業づくりも、その素地となる支持的風土が必要不可欠である。そこで、以下の取組を行った。

① 友達のことを知る1学期

ア 友達に対して興味や親しみをもつ自己紹介タイム

同じクラスの友達は、どんな人なのか知ることができるよう、教師が一人の児童にインタビューをして紹介をする時間をとった。まわりの子供たちはインタビューに答える友達をしっかりと見ており、友達に対する興味・関心が高まったようだった。

イ 友達に寄り添う気持ちを育てる情報共有

休み時間等に友達とのやり取りにおいて自分の気持ちをうまく伝え

られない出来事があった場合、学級全体で情報共有を行った。情報を共有すると友達の考え方や行動の仕方、言動の理由、気持ちの伝え方を学ぶことにつながり、友達に寄り添おうとする気持ちの醸成につながった。この情報共有は、現在も継続して行っている。(写真 1 3)

また、友達の関わり方や特別支援学級について特別支援教育コーディネーターの先生に話をしてもらった。児童は、一人一人に違いがあることを知り、これからの友達への寄り添い方について考える機会になったようだ。(写真 1 4)

ウ 一日の振り返りを書く連絡帳日記

連絡帳には、板書されたことを試写するだけではなく、学校生活をふり返って楽しかったことや嬉しかったことを二行日記として、書くことに取り組んだ。書き方は、「私は、〇〇（気持ちを表す言葉）です。どうしてかという、～（理由）だからです。」と示し、自分の気持ちとその理由を書くように指導をした。内容を自分で考えることが難しかった児童も、少しずつ自分で日記の内容を考え、書くようになった。(写真 1 5)

エ 「楽しかったこと、頑張ったこと」発表

帰りの会で、一日の生活をふり返って、自分が楽しかったことや頑張ったことについて発表している。連絡帳に書く日記と同じような言い方で発表しており、まわりの児童も発表したことについてお返しをしている様子が見られる。(写真 1 6)

オ 自分の考えを表す語彙の獲得

児童が自分の思いや考えを相手に伝えるためには、知らない言葉の意味や使い方をしっかりと理解して、納得して使う必要がある。語彙を獲得するために以下のような実践を重ねた。(写真 1 7、1 8)

- ・言葉の意味や使い方について、理解しやすい言葉で説明する。
- ・板書や掲示を用いた視覚的支援を行う。
- ・ふわふわ言葉を一緒に考える。
- ・写真を見て「どこで、何をしているのか。」「何故、この行動をしているのか。」等を考える。

② 交流をする中で、相手の気持ちを知り、思いを伝える 2 学期

ア 人前で話す自信をつける発表の機会

班やグループごと、全体の前で等、自分の考えを発表する機会を授業内外で設け、児童が人に話をする側、聞く側それぞれの言い方や態度について学びながら、人前で話す経験やお返しをしながら自分の考えをすぐに返す経験を重ねている。(写真 1 9～2 1)

イ 自己有用感や連帯感を高め、交流を生み出す係活動

体育係の児童は、全員遊びについて全員から希望をとったり、全員遊びのルールを紙に書いて準備したり説明したりした。自分たちで協力して取り組んだことに対して達成感を感じていた。(写真 2 2、2 3)

生き物系の児童が作った生き物に関するクイズについて、ペアトークの時間に答えを考える機会を設けた。系の児童が問題について話したり質問がないか問いかけたりすると、聞いていた児童から質問や感想が出てきて双方向のやり取りが見られた。

学習係は、授業の始めに計算式や漢字等のフラッシュカードを分担しながら問題を出し友達に答えてもらう活動を継続して行っている。みんな学習に取り組む意欲を高めることにつながっている。(写真24、25)

ウ よいところを互いに認め合う意識を

学級みんなで頑張ったことや特にやさしい行動が見られたことについて星の形の紙に書いて掲示したり、学級通信や「キラリさん発見」を掲示したりした。児童がそれらを見ながら友達のよさを認め合い、自分もよりよい行動をしよう意識することにつながるようにしている。また、児童のよい面を見つけた際には、連絡帳や電話で保護者に連絡し、家庭でも褒めてもらうようにしている。保護者からも認められ、さらに自信をもって友達とよりよく関わろうとする態度の醸成につながると考える。(写真26、学級通信例1、2、写真27、28)

③ 友達の話に自分のことをつなげて考える3学期になるように

3学期は2年生への進級を見据え、さらに学習理解と他者理解を深めていきたい。また、相手に感想を伝える際に、興味・関心を伝えるだけではなく、自分の体験と重ねて話すことが少しずつできるようにしていきたい。そのことが深い学びや次の学習への探求心につながると考える。

(3) 授業実践

国語においては、理由の話し方や尋ね方を学んだ。また、各教科において、児童が考えを発表したり対話をしたりする場面を設けて交流することに取り組んだ。友達の話に反応を返ししながら、聞きたいことを聞き出したり自分の考えを伝えたりする活動を取り入れた授業も行った。(写真29～34、学習構想案)

4 結果と考察

本実践の結果として、以下に成果と課題をまとめ、考察を述べる。

(1) 成果

- ① 授業中、ペアトーク中に限らず、友達と話すことや聞くことに対する意欲の高まりが見られるようになった。(アンケート2)
- ② 友達の考えや思いを大切にして、寄り添おうとする意識が高まった。型に倣ったやり取りではなく、相手の立場や考えを意識した関わりをしようとする子供が増えてきている。
- ③ 学級で活動することや友達と一緒に新しい学びを得られることに喜びを感じ、学級のために何かしたいと考える子供が増えてきている。

(2) 課題

- ① ペアトークの方法をより工夫することが必要である。併せて声の大きさや言葉遣い等についても丁寧に指導をしていきたい。
- ② ペアトークをすることが手段となるために、一つ一つの段階を丁寧に踏まえながら進めていく必要がある。全ての児童が自分の考えをスムーズに相手に伝えることができるようにしていきたい。
- ③ 語彙の量や質を増やすことと生活経験を重ねることが必要である。今後、より多くの言葉を使ったり確かめたりしながら、児童が多くの経験を重ねていけるように意識して授業づくりを行っていきたい。

(3) 考察

以上の結果から、ペアトークを主とした継続した取組によって、話をすることに對して不安や緊張が軽減し、話すことを意欲的に取り組む児童が増えてきたといえる。ペアトークで学んだことを普段のやり取りや授業において活用する姿も見られた。また、反応を返したり理由を尋ねたりしながら話をつなぐ力の育成につながったといえる。併せて、他者理解を深めて友達の話を受け止めたり寄り添ったりすることができるようになり、友達に対する親しみや連帯感、自己肯定感や自己有用感が高まった。3学期は、より多くの児童が話す相手や状況に応じて言葉を言い換えたり反応を返したりすることが自然とできるようにしていきたい。併せて、児童はペアトークで相手と話す喜びや楽しさを感じているが、今後はペアトークを通して、考えをより深めていけるように目指す児童の姿を意識しながら、効果的なペアトークのやり方、活動の仕方の工夫を考えていきたい。

5 おわりに

今年度は、ペアトークを取り入れながら授業づくりや学級づくりに取り組んだ。話すことによって新しい知識や感情等が得られることに気づき、それを喜ぶ児童もいる。また、言葉で友達に考えを伝える大切さや喜びを感じ、対話を楽しんでより友達との仲を深める児童が増えた。語彙の量や質・生活経験の差によって、会話のスピードや表せる気持ち限定されてしまうことがある。しかし、それでも目の前の友達が言いたいことは何かと考えながら聞いたり話したりしようと、友達に寄り添った言動ができる児童もでてきた。内面的に成長した児童の変化を感じることができて嬉しさを感じている。

3学期は、さらに多くの児童が自分の思いを言葉にすることができるようにしていきたい。自分の思いを言葉で表す喜びを共有し、認め合い喜び合える学級でありたい。そのために、普段から児童をよく見て、その頑張りやよさ・成長を認めて褒めながら、それを学級全体で共有することに意識して取り組み、対話を中心とした温かい雰囲気でも互いを認め支え合う学級を目指したい。

最後に、関わってくださった先生方に多くのご指導やご協力をいただき、ありがたく思っている。これからも、まわりの先生方に相談したりご指導をいただいたりしながら自分の取組や児童への関わり方がよりよいものとなるように努力し、指導力を高め、学級づくりや授業づくりを行っていきたい。

教育実践記録

子供がつながり合うクラスを目指して

～ペアトークを通して、相手の話を聞き、自分の考えを伝える児童の育成～

(資料)

1 ペアトークについて

(1) 目的

児童が自分の考えをもち、友達に伝えたり、友達の話を知ったりすることができるようにする。あわせて、他者理解を深め、コミュニケーションを円滑にすることにつなげられるようにする。

(2) 概要

席が隣同士の児童が二人一組のペアになり、話をする活動のこと。多人数での話し合いに比べて、それぞれの児童が発言する機会が多い。話す人と聞く人の距離も近く、反応を返したり質問したりしながら話を進めやすい。

(3) 進め方

ペアのうちどちらか一人がテーマに基づいて話をする。話を聞く人は、聞いたことについて反応を返したり、テーマに基づいた自分の考えを伝えたりする。その後も双方向のやり取りを3分程度続ける。

(4) テーマについて

ペアトークで話すテーマは、好きな色・動物・果物・教科等、運動会で頑張りたいこと等である。主に教師が事前に提示する。

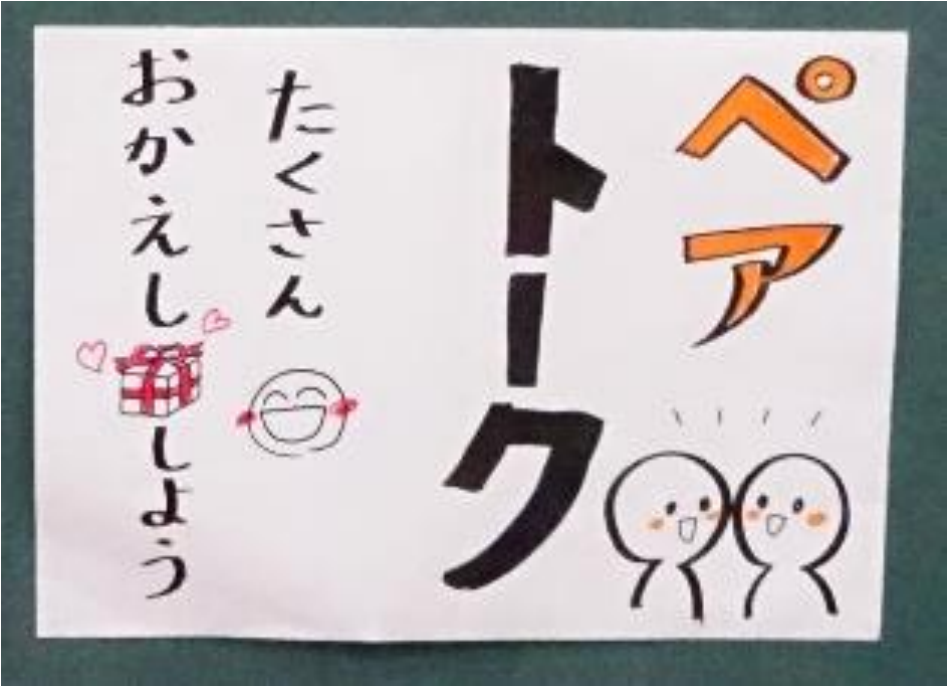
(5) ペアトークで目指す聞き方、話し方の段階

- ①テーマについて、自分の考えをもつ。
- ②友達にテーマについて話す。相手の話を聞く。
- ③話を聞いた人は、話した人に対して感想を伝えたり反応を返したりする等して、会話をつなぐ。
- ④話を聞いた人は内容について質問をする。質問された人は答える。尋ねたことに答えてもらったら感想を伝えたり反応を返したりする等して、会話をつなぐ。
- ⑤④に加えて、やり取りの中で、理由を話したり尋ねたりする。

(6) 配慮事項

- ①互いの考えを認め合う雰囲気大切に、尋ねたり応答したりすることを通して相手の話を聞く姿勢や心構え等を育てる。
- ②話のやり取りについて、やり方を限定せずに、児童が実際に困った場面を取り上げて、話し方や反応の仕方等について全体で考える機会を設ける。そして、会話を楽しめるようにする。
- ③会話の台詞例や反応例等を掲示し、困った時に参考にできるようにする。
- ④学級の友達と交流が広がるように、月に一度席替えを行い、ペアが固定しないようにする。
- ⑤話す内容が分からなかったり、人と話すことを苦手と感じる児童に対しては、個別に声をかけ気持ちを受け止めたり、明るく励ましたり、休み時間にやり取りを練習したり、教師が間に入って友達と練習したりして人と話す活動が前向きにできるよう支援する。

写真1 ペアトークの掲示



シート1 ワークシート例

⑤	④	③	②	①

😊 すきな くだもの を 五つ おしえて ください。

名前

すきなもの おしえてね♪



写真2 児童の記入例

⑤	④	③	②	①
	お	ゲ	フ	な
	え	ー	ラ	わ
	か	ム	フ	と
	き		ー	び
			プ	

😊 すきな あそび を 五つ おしえて ください。

名前

すきなもの おしえてね♪



写真3 ワークシートを使用しながらのペアトークの様子



写真4 ポスト



写真5 児童が投函したペアトークのテーマ

わたしは、みんなが、好きなお
かしを、しりたいです。どうして
かという、みんながどん
な おかしが好きなんだ
ろうとおもいます。

写真6 話の概要を聞き取る活動のワークシート

⑤ どうおもった。 (どんなきもちか)	④ なにをした。	③ だれが	② どこで	① いっ
♡		ちゃんとし	まえにわ	ひるやすみ
	てつぼう			

写真7 学校で取り組んでいる「反応名人になろう」掲示

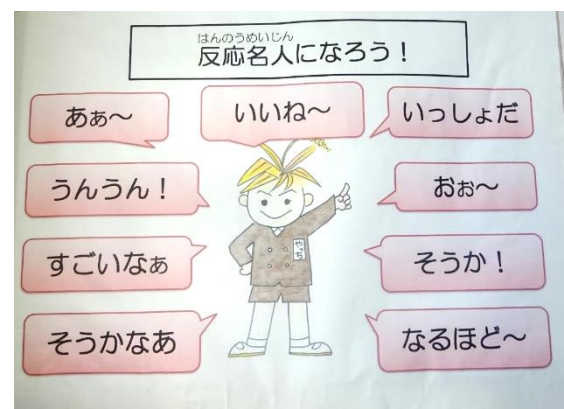
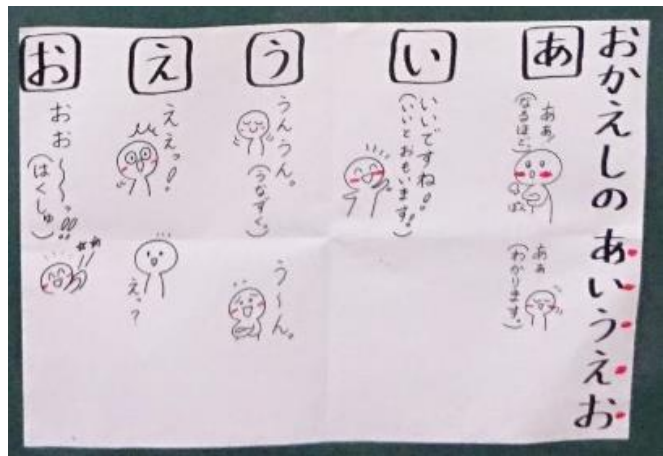


写真8 お返しの反応例掲示



アンケート 1 ペアトークにおいて、反応があるかどうかについての意識の状況

9 月末

在籍児童 28 人中 人 (%)

調査内容	いつも している	だいたい している	あまり していない	して いない
あなたは、相手にお返しの言葉を言ったり 反応を返したりしていますか。	14 (50. 0)	9 (32. 1)	4 (14. 3)	1 (3. 6)
相手は、あなたにお返しの言葉を言ったり 反応を返したりしてくれますか。	9 (32. 1)	13 (46. 4)	5 (17. 9)	1 (3. 6)

12 月末

在籍児童 28 人中 人 (%)

調査内容	いつも している	だいたい している	あまり していない	して いない
あなたは、相手にお返しの言葉を言ったり 反応を返したりしていますか。	11 (39. 2)	15 (53. 6)	1 (3. 6)	1 (3. 6)
相手は、あなたにお返しの言葉を言ったり 反応を返したりしてくれますか	23 (82. 1)	4 (14. 3)	1 (3. 6)	0 (0. 0)

写真 9 教師からの出題例

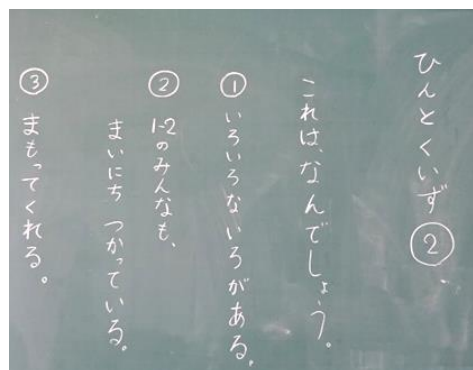


写真 10 ヒントクイズの出題方法を学ぶ。



写真 11 ペアで考えた問題を出題する。

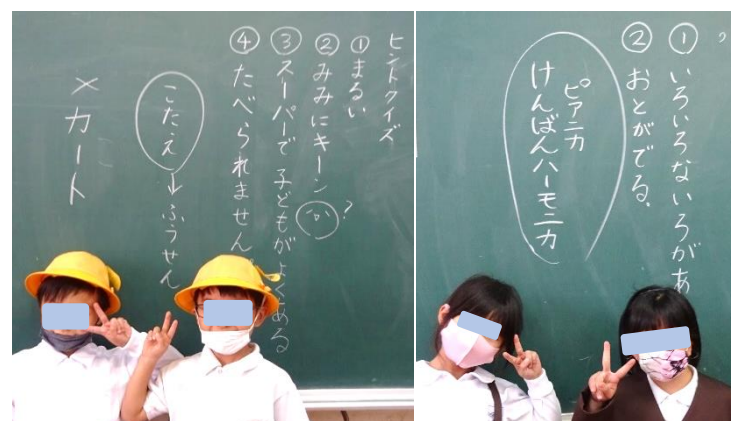


写真 12 出題した後に、友達に質問はないか尋ねている様子



写真 1 3 友達に気持ちや行動の理由を聞き取る子供たち



写真 1 4 特別支援学級についての話を聞く子供たち



写真 1 5 連絡帳日記の記入例

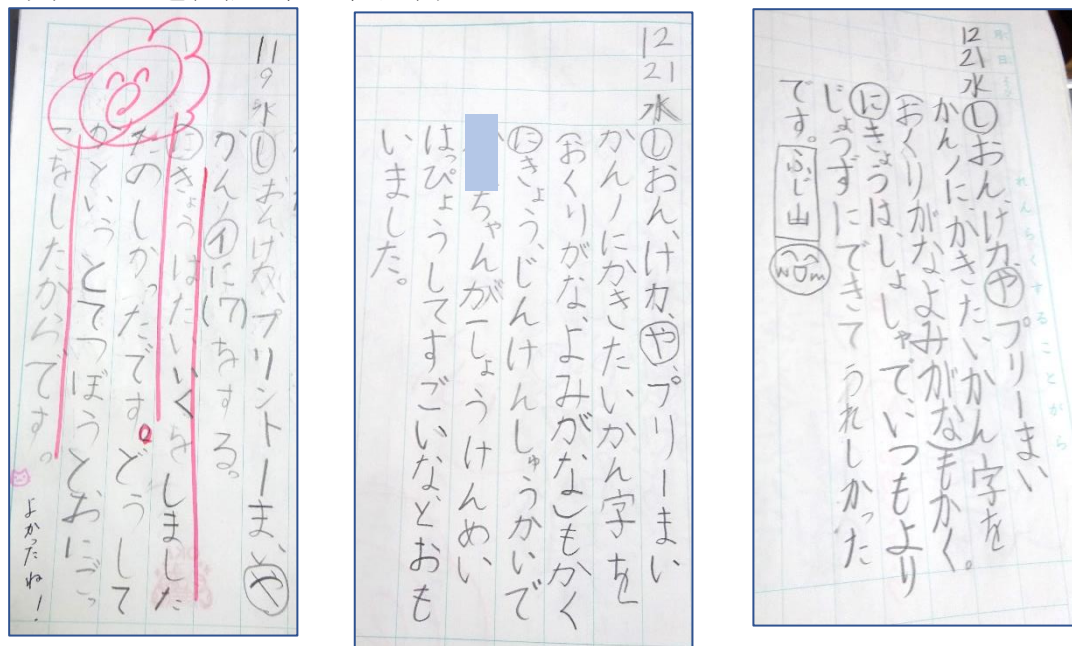


写真 1 6 帰りの会での一日の振り返り



写真17 ふわふわ言葉

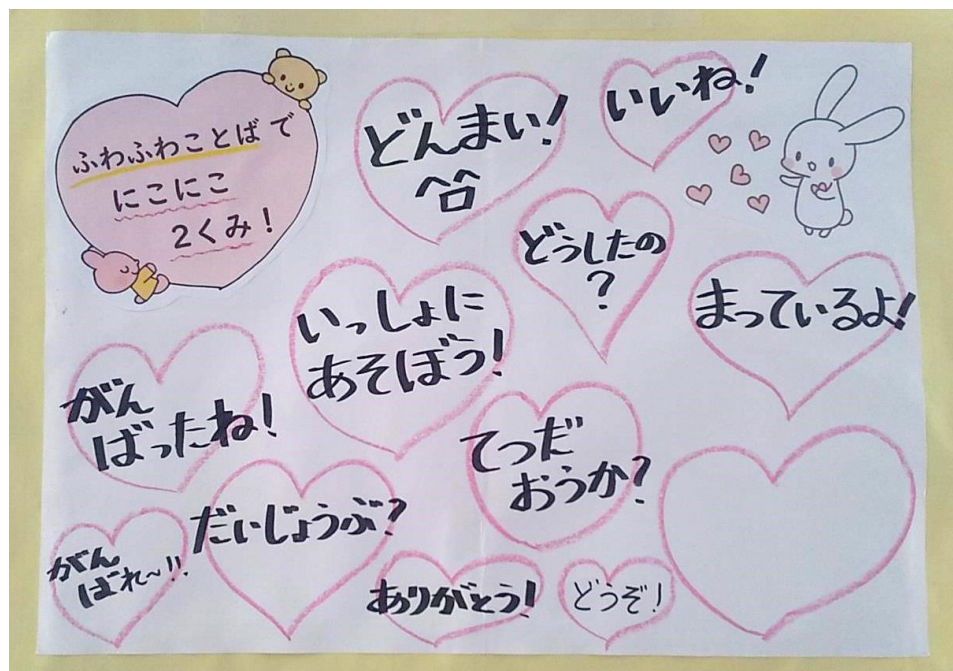


写真18 気持ちを表す言葉あつめ

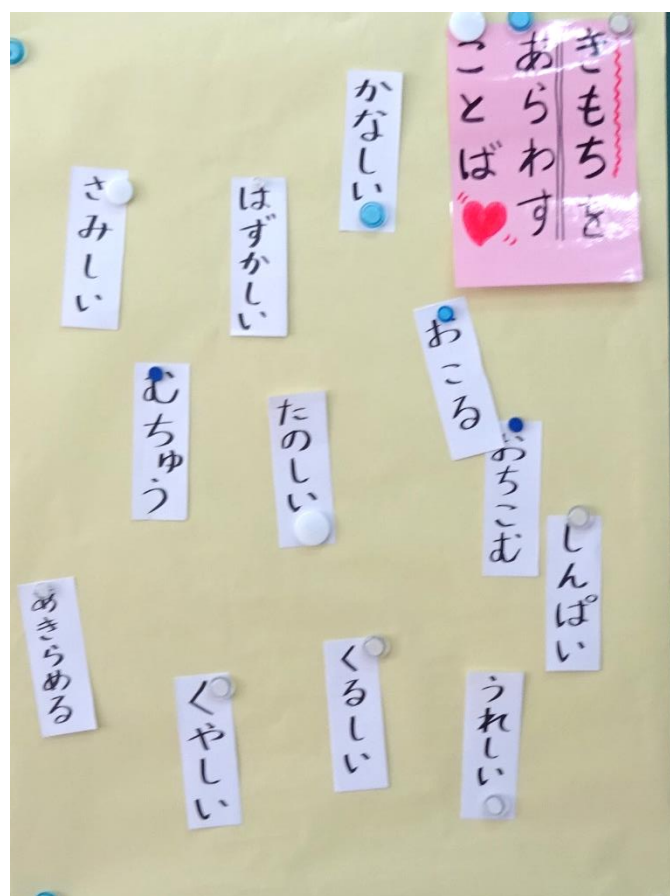


写真 1 9 班での発表の様子



写真 2 0 グループでの発表の様子



写真 2 1 感想や質問等を返す様子



写真 2 1 全体の場での発表の様子



写真 2 2 全員遊びの話をする体育係



写真 2 3 ルール説明を準備する体育係

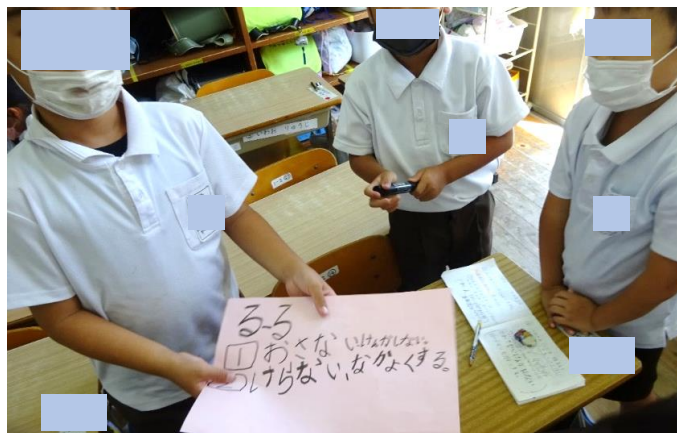


写真 2 4 フラッシュカードを見せる学習係



写真 2 5 分担して活動する学習係

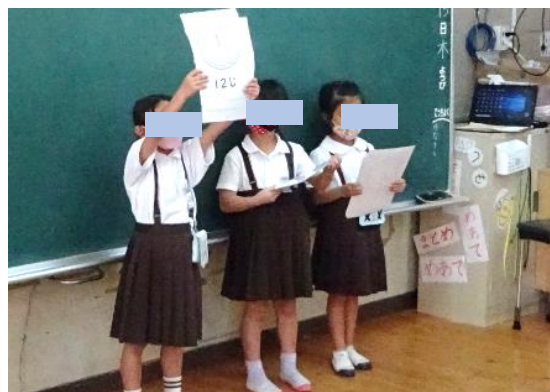
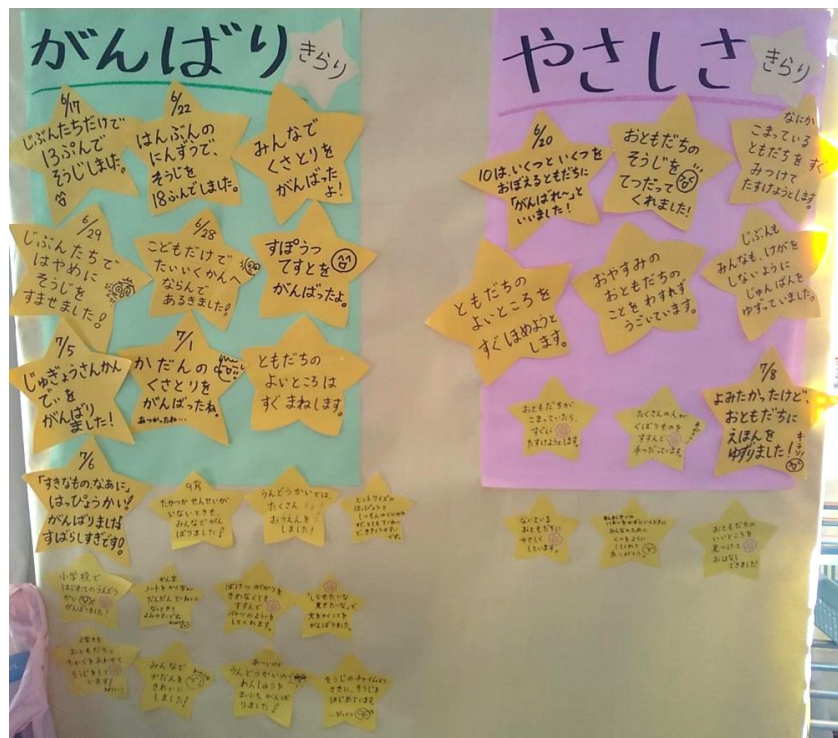


写真 2 6 キラリの星の掲示



学級通信例 1

にこにこ

令和 4 年 5 月 27 日 (金)

～最近の 1 年 2 組の様子～

体験を重ねることが、自分の力に！

私が、1 年 2 組の子どもたちは素晴らしいと思うことの一つに、掃除に一生懸命取り組む姿が挙げられます。1 年生はそれぞれの教室と廊下を掃除します。4 月に初めての掃除をする前に、パワーポイントのスライドを使って掃除のやり方を説明しました。説明を聞いただけではうまくいかないこともありましたが、実際に掃除をしながら教師に声をかけられたり友達に取り組む姿を真似したりして、今では次に何をするかを理解し、積極的に掃除をする子どもたちがたくさんいます。

机を二人で運ぶこと、床の板目に合わせて雑巾がけをすること、他に拭いていない場所がないか探すこと、雑巾はバケツの水面の近くで絞ること等ひとつひとつ一生懸命取り組む姿はとても素晴らしいです。

初めは失敗してもうまくできなくても、大人がやった方が早く終わることも、子どもたちは自分で体験したことを自分の力にしているのだと思います。逆に言うと、体験せずに見るだけ聞くだけでは力がつくことにはつながらないことが多いと思います。ご家庭でも、子どもたちのできそうなことを少しずつ任せて、体験を重ねる機会を設けていただけると子どもたちの成長につながると 생각합니다。最初は時間がかかってしまったりうまくいかなかったりするかもしれませんが、どうぞよろしくお願いします。

ひらがなの学習では、まずは、ひらがなを読めること、次に読みやすい字で書くことを頑張っています。

とめ、はね、はらい、まがり、おれ等に気をつけて丁寧に書く友達の様子をモニターで見ながら自分も丁寧に書くことを頑張ろうという様子が見られます。

算数「いくつといくつ」で学習したことをくり返し学べるように、数のカードをカレンダータイプにして教室に置いています。休み時間にも友達と遊びながら復習できるというと思っています。

めだかの赤ちゃんが卵から、産まれました。まだ体長数ミリの赤ちゃんたちが、可愛らしく泳ぐ様子を友達と眺めています。

学級通信例 2

にこにこ

令和 4 年 10 月 18 日 (火)

～あきをさがしに～

～あきをさがしに～

朝夕は少しずつ涼しくなり、秋の気配が感じられるようになりました。先日、会地公園に散歩へ行った際にも虫の他にドングリや落ち葉を拾う子どもたちの様子が見られました。

学校の敷地内にもドングリやマツボックリ、黄色の葉になり始めた桜やイチョウの木があります。先日は、子どもたちをキンモクセイの木の近くに連れて行きました。キンモクセイの木には、花が咲き始めていましたので、ほのかに匂いがしました。子どもたちからは「みかんのにおいみたい！」「いいにおい！」という声が聞こえてきました。

キンモクセイの近くにはイチョウの木があり、ギンナが落ちていたので、「ギンナのおいが強すぎてキンモクセイのおいがわかん！」という声も…。五感を使いながら、観察をすることができていました。また後日、秋を探しに教室の外に出てみたいと思います。

五感を使いながら観察する学習は、生活の時間だけではなく、国語「しらせたいな、見せたいな」では、五感を使って虫の観察をして、おうちの方に自分が伝えたいことを文章にすることをがんばっています。

お忙しいとは存じますが、子どもたちの作文が完成上がりましたら、読んでいただき、感想を一言いただけたらとありがたいです。どうぞよろしくお願いします。

↑ グループの中で、気付いたことについて情報交換をしながら、進めています。

つかまえた虫を見たりさわったりしながら、**気付いたこと**をプリントに書きこんでいます。

～くり上がりのあるたし算の学習をしています。～

算数の時間のはじめには、学習係の子どもたちが、「なんじ、なんじはん」のフラッシュカードや計算カードを、他の子どもたちに見せて答えを考えてもらう時間をとっています。簡単に思う子どももいるかもしれませんが、基本は大切だと思います。

「こんなの簡単。」と思っていても「+」と「-」を間違えて計算してしまったり、少し前に学んだことを思い出すことに時間がかかってしまったりすることがあります。毎日の音読と一緒に取り組んでいる計算カードにしっかり取り組むと必ず力はついていくと思います。

今、学んでいることはこれから続いていく学習の基礎になるものです。保護者の皆様がいっしょに子どもたちに関わって下さるからこそ培うことができるものだと思います。お忙しい中に子どもたちの学習を見ていただいていることを大変ありがたく思っています。これからもどうぞ子どもたちのためにご理解ご協力をよろしくお願いします。

写真 2 7 キラリはっけんの掲示例 1



写真 2 8 キラリはっけんの掲示例 2



写真29 国語「わけをはなそう」板書

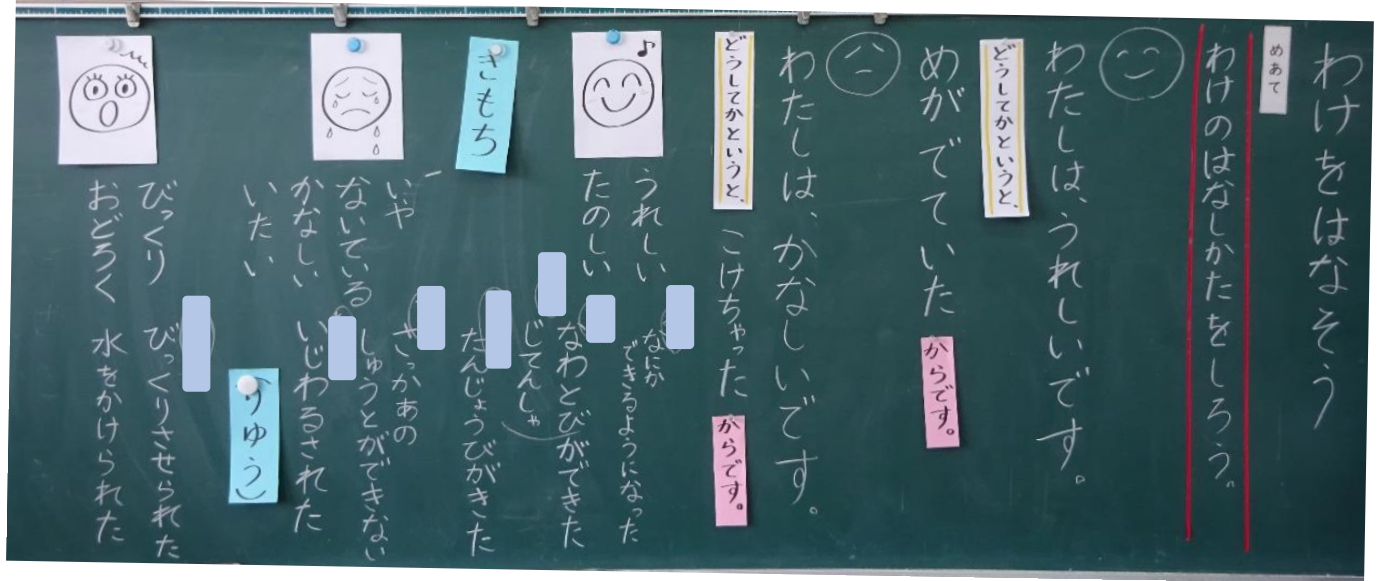


写真30 写真 どんな聞き方をすればよいのか児童と考える一般化した時の掲示

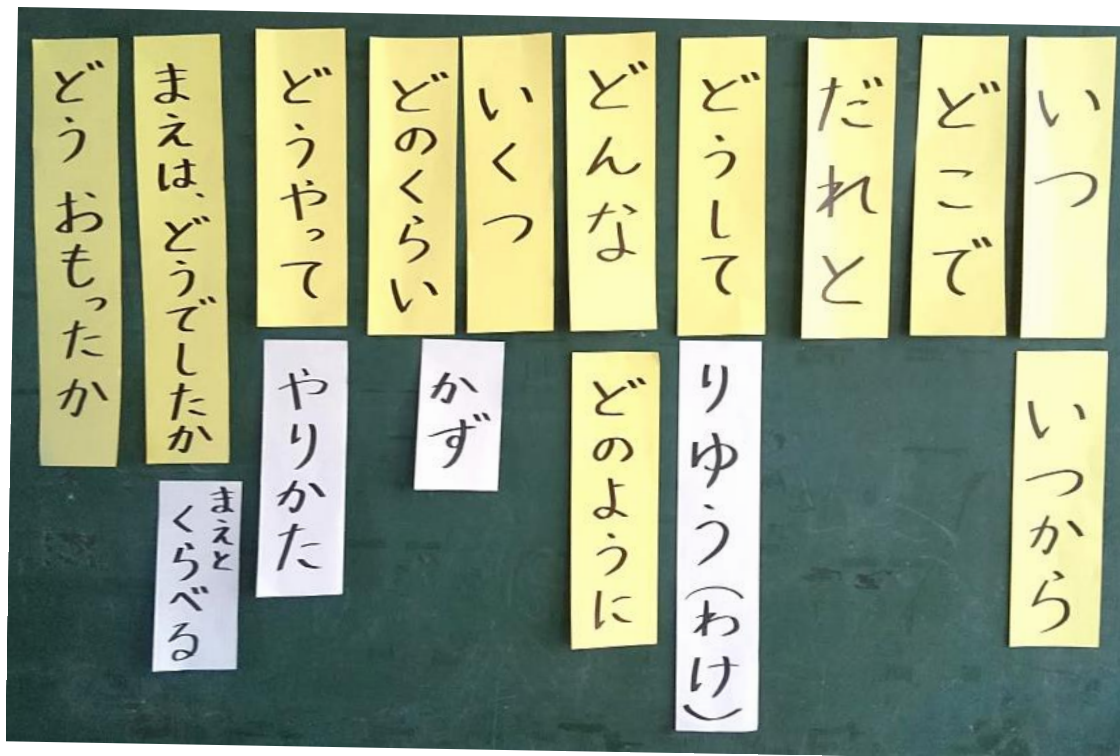


写真３１ 国語「すきなもののなかに」発表の様子



写真３２ 感想を交流する様子



写真３３ 計算カードで問題を出し合う様子（算数）



写真３４ 友達の絵を見て、感想を言ったり質問したりする様子（図画工作）



第1学年 国語科 学習構想案

日 時 令和4年12月14日（水）第5校時

場 所 1年2組教室

指導者 教諭

1 単元構想

単元名	きいて しらせよう「ともだちのこと、しらせよう」 (光村図書「一下 ともだち」 p38～41)		
単元の目標	(1) 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。 〔思考力、判断力、表現力〕 A (1) エ (2) 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。 〔思考力、判断力、表現力〕 B (1) オ (3) 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。 〔思考力、判断力、表現力〕 A (1) ア (4) 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。 〔思考力、判断力、表現力〕 B (1) ウ (5) 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。 〔知識及び技能〕 (1) オ (6) 友達が楽しいと思うことについて紹介するという見通しをもち進んで友達に聞き取ったり、紹介文を読み合って感想を伝え合ったりしようとしている。 〔学びに向かう力、人間性等〕		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1) オ)	① 「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A (1) エ) ② 「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B (1) オ) ③ 「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A (1) ア) ④ 「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B (1) ウ)	① 友達のことを紹介する文を書くという見通しをもち、進んで友達に質問したり反応を返したり、紹介文を書こうとしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
友達と話をするとき、友達が伝えたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもとうとする児童			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
どのようにすれば、友達の楽しいと思うことを詳しく聞き出して、紹介する文を書くことができるだろうか。		詳しく知りたいことを考えながら友達の話を聞き取る中で適切な言葉は何かを考えることを通して言葉への自覚を高めること。	

指導計画と評価計画（6時間取扱い 本時3／6）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体の評価基準」
一	1	○教師が聞き取りをしたり質問したりする様子を見る。 ○学習の見通しをもつ。	【態①】（観察・発言） ○友達が楽しいと思うことを聞き取って紹介するという学習に意欲をもっている。
二	2	○友達にどのようなことを聞いてみたいか考え、共有する。 ○教科書を使って、練習する。	★【知①】（観察・発言） ○知りたいことや伝えたいことを表現する為に、適切な言葉を探している。
	3 本時	○友達に「楽しいこと」について聞いたり質問したりして、分かったことを書く。	★【思③】（観察・発言） ○自分が楽しいと思うことを決め、友達からの質問に答えている。 ★【思①】（観察・ワークシート・発言） ○相手が自分に知らせたいことや自分が聞きたいことは何かと考えながら聞いたり、質問したりしている。
	4	○紹介するための文を書く。	★【思④】（観察・ワークシート） ○友達の楽しいと思っていることについて分かったことを、まとめや順番を考えて文章を書いている。
	5	○前時に書いたものをもとに、紹介文を班で読み合っ、よりよい文章にする。	【態①】（観察・発言・ワークシート） ○進んで友達に質問したり反応を返したりすることで、友達と話したり聞いたりすることを楽しむことができる。
三	6	○書いた紹介文を、友達と読み合い、交流をする。 ○友達の紹介文について感想を伝え合う。	★【思②】（観察・ワークシート） ○友達の文章に対する感想を言い、文章の内容や表現のよいところを見つけている。 ★【態①】（観察・発言・ワークシート） ○単元の学習を通してどんな力がついたかを振り返り、学んだことを今後にかそうとする意欲をもっている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）
小学校学習指導要領第1学年及び第2学年 〔知識及び技能〕（1）言葉の特徴や使い方に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」
教材・題材の価値
1学期には「すきなもの、ななに」という教材で、自分の好きなものについて文を書き、友達の前で自分の好きなものを紹介する活動をしている。本教材では、友達が楽しいと思うことについて、自分で取材をして紹介をする活動を行う。友達の楽しいと思うことについて関心を持ち、聞きたい話したいと意欲的に活動することに適している。また、児童一人一人が聞き取ったことを紹介するという見通しを持ちながら、友達の話を聞き取ったり内容について質問したりすることを通して内容に合わせた適切な言葉を選んだり書いたりする言語活動に適している。

本単元における系統

1年「ききたいな、ともだちのはなし①」
・話している友達を見て、終わりまで聞く。

1年「すきなもの、ななに」
・好きなものを、理由とともに友達に話す。
・好きなものとその理由を、2文で書く。

1年「ききたいな、ともだちのはなし②」
・友達の話を聞き、質問をしたり、感想を言ったりする。

1年「ともだちのこと、しらせよう」
・おもしろいところや、詳しく知りたいことを考えながら聞く。
・友達の文章を読み、感想を伝える。

1年「ききたいな、ともだちのはなし③」
・友達の話を聞き、詳しく知りたいことを質問する。

2年「あったらいいな、こんなもの」
・質問をして、相手の考えを引き出す。

児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■ 本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 在籍児童 28 人中 人(%)

調査内容	A	B	C
「話すこと・聞くこと」単元テスト（思考・判断・表現）	22 (78.6)	4 (14.3)	2 (7.1)
「ひらがなを読む」テスト	22 (78.6)	5 (17.9)	1 (3.6)
「ひらがなを書く」テスト	25 (89.8)	2 (7.1)	1 (3.6)

■ 話したり聞いたり、書いたりする学習に関する意識の状況 在籍児童 28 人中 人(%)

調査内容	好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	嫌い
国語が好きですか。	13 (46.4)	5 (17.9)	8 (28.6)	2 (7.1)
音読をすることが、好きですか。	13 (46.4)	6 (21.4)	6 (21.4)	3 (10.7)
皆の前で発表することが好きですか。	8 (28.6)	12 (42.9)	4 (14.3)	4 (14.3)
文を書くことが好きですか。	16 (57.1)	2 (7.1)	5 (17.9)	5 (17.9)
友達の発表を聞くことが好きですか。	17 (60.7)	7 (25.0)	3 (10.7)	1 (3.6)
隣の人と、話し合いをすることは、好きですか	17 (60.7)	7 (25.0)	1 (3.6)	3 (10.7)

■ 考察

話すこと・聞くことの学習に関する基礎・基本の定着状況については、1学期にはA評価が22人、B評価が4人、C評価が2人であった。あわせて、ひらがなを読んだり、書いたりすることに関する定着状況については、だいたい基礎・基本は定着していると考えられる状況だが、C評価の児童が今後定着を目指していけるような学習をくり返し重ねていく必要がある。

話したり聞いたり、書いたりする学習に関する意識の状況については、国語の学習は約6割の児童が「好き」と答えている。理由としては「自分が知らないことを知れるから。」という前向きな考えをもつ児童もいる。ただ、自分の考えを皆の前で発表することについて「どのように話せばいいのかわからない。」「恥ずかしい。」と考えている児童がいる。また、自分で文章を書くことについて「どのように書いたらいいかわからない。」と難しさを感じている児童がいる。友達の発表を聞くことや隣の人と話し合いをすることについては、8割以上の児童が「好き」と答えており、友達との会話を楽しんでいる児童が多いと考えられる。

本単元の学習を通して、友達の話を聞き、内容を正しく聞き取り、聞き取ったことをまわりに伝えるために文章を書くことができるようにしていきたい。「すきなもの、ななに」では、自分が紹介したいものについて友達や家族に伝えようと学級全体の前で発表をすることを児童全員が経験し、達成感を感じる様子が見られた。自分のできたことやがんばったことを友達に伝えたい、知ってほしいという意欲を普段の授業の様子から感じることができている児童もいる。今回も、友達のことを紹介したいという意欲をもちながら学習に取り組めるようにしていきたい。

3 校内研究テーマとの関連（指導上の留意点を含む）

（テーマ）主体的・対話的で深い学びを実現する指導法の工夫

（個人テーマ）自分の考えを持ち、友達に話すことができるクラス

【仮説】教師が対話的な学びの視点について、自己のテーマを設定し授業改善を行っていけば、研究テーマに迫れるであろう。

◇視点1「対話的な学び」 先生や友達の話、その他の情報を受けて自分の考えを広げ、協働して課題解決する子供

- 「友達の楽しいと思うこと」をより詳しく聞き取ろうとするには、どのような聞き方、質問の仕方がよいのかを考えさせることで、相手が自分に知らせたいことや、自分が聞きたいことを落とさずに質問することができるようにする。

◇視点2「情報活用能力」 問題を解決するために必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、解決への見通しをもつことができる子供

- どのような聞き方をすれば、友達が楽しいと思うことを詳しく聞き取ることができるか具体例を出して考えを出し合い、自分が聞き取りをする際にそれらの考えを参考にしながら活動ができるようにする。
- 自分が書く紹介文をよりよいものにするために、児童の紹介文のよいところを全体に紹介して共有したりグループの友達と文章を読み合って友達と認め合ったりする場面を設定し、学んだことを自分の紹介文に取り入れることができるようにする。

【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

- 1、デジタル教科書にある教材文の挿絵、紹介文の見本等を掲示して、学習課題についてのイメージを共有する。
- 2、前時の板書をモニターに映すことによって、学習したことをふり返ったり参考にしたりしながら次の活動に取り組めるようにする。

※人権が尊重される授業づくりの視点から

- 友達の発言や文章のよさに気付き、互いに学び合おうとする態度や互いの紹介文をよりよいものにしようとする意識をもって関わろうとする雰囲気作りに努める。
- 紹介文を読み合って、友達の紹介文へのアドバイスや気付きを受け入れたり、よさを取り入れたりしながらよりよい紹介文を作ること達成感や仲間意識を高めたり、学習意欲を高めたりすることができるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標

「楽しいと思うこと」について友達の話を中心して聞き、質問をすることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
つかむ・見通す	10分	1 本時の目標をつかみ、学習の見通しをもつ。 ①前時までの学習をふり返る。 ②聞き取りをするにあたり、どのような質問の仕方、答え方をするとよいかをおさえる。 【めあて】 たのしいとおもうことについて、ともだちにくわしくきいてみよう。 ③本時の学習の流れを確認する。 【学習課題】 どのようにすれば、友達が楽しいと思うことについて、聞き落とさずに詳しく聞き出せるだろうか。	○単元のゴールを確かめ、単元計画に沿って、見通しを持ち学習を進めてきていることを確かめる。 ○友達の話に対して反応を返しながらかき聞くことを児童が意識できるようにくり返し声をかける。
探る・深める	25分	2 課題の解決に向けて活動する。 ①例示をする。 ②ペアになって、友達が楽しいと思うことについて聞いたり質問したりする。 ③分かったことを書く。 ④役割を交代して、①～③を繰り返す。 ◇どんな話だったかな。 ◇もう一回、○○について教えてください。 ◇ゆっくり話してくれるから、話してくれたことを覚えやすいよ。 ◇たくさん話があって、どのことについて書こうか決められないな。 【期待される学びの姿】 友達が伝えたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。 ⑤ワークシートに書いたことを見直す。	○机間指導をこまめに行い、児童が取り組んでいる状況や内容を把握するよう努める。 ○児童が、例示をもとにインタビューを進めることができるように、ゆっくり進めていく。 ○紹介文を作るために必要な言葉をメモすることができるように、ワークシートに書き込むように声をかける。 ○聞き手に配慮した話し方をするように声をかける。 【具体の評価規準】★思① ○相手が自分に知らせたいことや自分が聞きたいことは何かと考えながら聞いたり、質問したりしている。 (方法：観察・ワークシート・発言) 【到達していない児童への手立て】 友達にどのように質問すればよいかを一緒に考えたり、聞き取りを区切りながらメモができるように声をかけたりする。
まとめる・広げる	8分	3 友達の話聞いて質問を返したり反応を返したりすることができたかを確かめる。 また、聞いたことをもとに、友達の紹介文に使うための材料を集めることにつながるものになったかを確かめる。 【まとめ】 ともだちのはなしをきいたあとに、もっとききたいことをかかんがえてしつもんすると、ともだちがたのしいとおもうことがよくわかった。	
ふり返る	2分	4 本時の学習をふり返り、次時からの学習の見通しをもつ。	

ともだちのこと、しらせよう

めあて

たのしいとおもうことについて、
ともだちに ぐわしくきいてみよう。

●どんなことを きいたらいいか

- ・いつから
- ・だれと
- ・どんなふうに（どうやって）
- ・どこで
- ・どうして（りゆう）

ともだちのこと、しらせよう

名まえ（ ）

★はなしをきいた ともだちの名まえ

（1）ともだちの いま いちはたのしいこと

（2）ぐわしくきいて、わかったこと

さん

（ワークシートを拡大したもの）

まとめ

ともだちのはなしをきいたあとに、もつとききた
いことをかんがえてしつもんすると、ともだちが
たのしいとおもうことがよくわかる。

めあて

たのしいとおもうことに
きいてみよう。

● どん^どなことを きたいかい

- ・いつから
- ・だれと
- ・どんなふうに（どうやって）
- ・どこで
- ・どうして（りゆう）

ともだちのこと、しらせよう

名まえ（ ）

★はなしをきいた ともだちの名まえ

--	--	--	--	--

さん

(1)ともだちの いま、いちばんたのしいこと

(2)くわしくきいて、わかったこと



(ワークシートを拡大したもの↑)

まとめ

ともだちのはなしをきいたあとに、もつとききた
いことをかんがえてしつもんすると、ともだちが
たのしいとおもうことがよくわかる。

アンケート2 話すこと、聞くことに関する意識の状況

10 月末

在籍児童28人中 人 (%)

調査内容	好き	どちらか というと 好き	どちらか というと 嫌い	嫌い
皆の前で発表することが好きですか。	8(28.6)	12(42.9)	4(14.3)	4(14.3)
友達の発表を聞くことが好きですか。	17(60.7)	7(25.0)	3(10.7)	1(3.6)
隣の人と、話し合いをすることは、好きですか	17(60.7)	7(25.0)	1(3.6)	3(10.7)

12 月末

在籍児童28人中 人 (%)

調査内容	好き	どちらか というと 好き	どちらか というと 嫌い	嫌い
皆の前で発表することが好きですか。	10(35.7)	11(39.3)	6(21.4)	1(3.6)
友達の発表を聞くことが好きですか。	21(75.0)	5(17.9)	2(7.1)	0(0.0)
隣の人と、話し合いをすることは、好きですか	21(75.0)	4(14.3)	2(7.1)	1(3.6)